

はじめに

太平洋戦争が終わり、時間の経過とともに、戦災を経験された人や当時の状況を想起させる建物などが少なくなりつつあり、記憶と記録の風化が懸念されています。

私たちの明石市にも、非常に多くの被害がありましたが、子どもたちの多くは、この事実を知りません。社会科の時間や修学旅行の訪問先において、戦争の悲惨さや戦災の痛ましさ、平和の尊さなどについて学習し、平和への意識を新たにしながらも、どこことなく遠い場所、遠い昔に起きたことのようにとらえがちです。

そこで、本市では、当時学生であった明石市民の体験をもとに戦争中の明石空襲を描いたマンガ「七夕の願い～明石空襲～」を作成しました。

そして、マンガでは描き切れない明石の戦災の史実を次世代に継承していくことをねらいとして、「明石の空襲－史実編－」を作成しました。この冊子では、明石で起こった空襲による被災の状況や市内に残る戦争の傷跡、亡くなった方々を慰霊する碑等を当時の写真や文献資料等を使いながら紹介しています。

これらの平和啓発冊子が活用され、子どもたちはもとより市民の皆さまが当時明石で起こった事実を知り、“わがこと”として平和の大切さを感じ、平和を守り続ける心が育まれていくことを強く願っています。

さらに本市では、2021（令和3）年1月19日に、明石市立文化博物館の中に「明石市平和資料室」を開設しました。明石市民が戦争の記憶を共有し、子どもたちに伝えていく場となるよう、今後も継続して取り組みを進めていきます。

最後になりましたが、「明石の空襲－史実編－」を作成するにあたりご協力いただきました多くの方々に厚く感謝申し上げます。